

## 福島の桃が今年もおいしく実りました！

くだもの王国と呼ばれる福島県。夏を代表するくだものは、福島市と伊達市を中心に生産されている桃です。2013 年も生産者の皆さんの力で、おいしい桃が収穫されました。主力品種の 1 つであるあかつきの生産現場を訪ね、お話を伺ってきました。

8 月上旬、福島県福島市の農家、高橋勘重（たかはし・かんじゅう）さんは、桃の収穫に追われていました。収穫している桃の品種はあかつき。肉質が固めで甘さと酸味のバランスに優れている品種です。

「朝は日の出前に起きて、太陽が顔を出すのを待って収穫を始めます。1 日 800kg ぐらい収穫しています」

手を休め、高橋さんはそう話します。

高橋さんはコープふくしまの桃の産直生産者で「朝採り桃、当日お届け便」が大変好評です。

この日の朝に収穫した桃は、午前中のうちにトラックに乗せられコープあいつの各店舗へ届けられました。毎年の恒例となっている朝採りの桃は組合員から「今年はいつから届きますか？」といった問い合わせも多く寄せられるほどの好評です。

「今年は雨が多かったので、甘味がうまのっていないんですよ」

桃の出来を尋ねると、高橋さんはそう眉をしかめました。と言っても、高橋さんの桃は、贈答用の基準を十分クリアしていて今年も大変美味しいのです。理想が高く、不満気な表情は、まさに職人です。

桃の栽培の大きな敵は雨。実が水分を含むことで甘味が薄れてしまうといます。また、へたの部分に水が入ると、そこから実が傷んでしまい、ジュース加工用になってしまうのです。

「8 月に入って、ようやく天候が回復して暑くなってきました。これから味がおいしくなって、甘い桃を皆さんにお届けできると期待しているんですよ」と笑顔を見せてくれました。

高橋さんの桃は、宅配便で全国にも送られています。「東日本大震災の直後は、私たちも不安でたまりませんでした。比較的放射線量は低かったのですが、東京電力福島第一原発事故による風評被害の影響は大きく、11 年の販売は例年の 3 分の 2 くらいにまで落ち込みました。しかし、コープふくしまを通じて全国の皆さんに桃を食べていただき、3 年目で 80% くらいまでようやく回復しました。全国の皆さんから福島の桃はおいしい！ という声をいただいて本当にうれしいです」と高橋さんは話してくれました。



実に雨がかかったり、直射日光に当たりすぎたりするのを防ぐため、葉をカーテンのように生い茂らせるように枝をせん定します。



繁忙期は、パートさんを含め 5 人体制で 1 日 800kg 近い桃を収穫します。

また、コープふくしまは、福島県産農産物の消費促進の取り組みとして、JA や漁協などをつくる「地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会」で「福島応援隊」の取り組みも行なっています。これは、福島の果物をギフトとして贈る取り組みで、桃のギフトは今年で3回目になりました。

福島県産の桃は、あかつきが終わると伊達白桃、川中島、さくら白桃と、収穫は9月のお彼岸の頃まで続きます。



生産者の高橋勘重さん